

**三菱UFJフィナンシャル・グループ**

**2009年度第3四半期決算の概要  
(2009年4月～2009年12月)**

**2010年2月3日**

● 損益サマリー	2
● B/Sサマリー	3
● 貸出金・預金	4
● 貸出資産	5
● 保有有価証券	6
● 保有証券化商品等	7
● Appendix	8

＜本資料における計数の定義＞

連結 : 三菱UFJフィナンシャル・グループ（連結）  
単体合算 : 三菱東京UFJ銀行（単体）と三菱UFJ信託銀行（単体）の単純合算

# 損益サマリー

【連結】



(単位:億円)

## ● 業務純益

- 資金利益は法人貸出収益、市場関連収益が増加したことに加え、アコム連結化により大幅な増加
- 営業費は統合効果の発現に加え、グループ横断的なコストマネジメントの徹底により減少
- 以上の結果、実質業務純益は大幅増加  
アコム連結化を除いても+930億円の増益

## ● 与信関係費用総額

- 海外子会社での増加に加え、アコム連結化により増加。単体合算ではほぼ前年同期並み

## ● 株式等関係損益

- 株式等償却負担の減少を主因に大幅な増加

## ● その他の臨時損益

- 退職給付費用の増加を主因に減少

## <連結P/L>

	08年 1-3Q	09年 1-3Q	(単位:億円)	
			増減	除く アコム
1 業務粗利益 (信託勘定償却前)	24,928	26,898	1,969	137
2 うち資金利益	14,101	16,511	2,410	756
3 うち信託報酬+役員取引等利益	8,158	7,934	▲223	-
4 うち特定取引利益+その他業務利益	2,669	2,452	▲216	-
5 うち国債等債券関係損益	796	630	▲165	-
6 営業費	15,729	15,640	▲89	▲793
7 実質業務純益	9,198	11,258	2,059	930
8 与信関係費用*1	▲4,344	▲6,277	▲1,933	-
9 株式等関係損益	▲3,263	▲200	3,062	-
10 その他の臨時損益	▲452	▲1,219	▲767	-
11 経常利益	1,139	3,560	2,421	-
12 特別損益	▲32	89	122	-
13 法人税等+法人税等調整額	903	986	82	-
14 四半期純利益	▲420	2,170	2,591	2,613
15 与信関係費用総額*2	▲4,335	▲6,277	▲1,942	▲937
16 うち単体合算	▲2,916	▲3,137	▲220	-

\*1 与信関係費用=与信関係費用(信託勘定)+一般貸倒引当金繰入額  
+与信関係費用(臨時損益内)(▲は費用)

\*2 与信関係費用総額=与信関係費用+偶発損失引当金戻入益(与信関連)(▲は費用)

## <ご参考>

(単位:円)

17 1株当たり利益	▲4.36	17.47	21.84
18 連結ROE *3	▲0.98%	3.63%	4.62%

\*3

(四半期純利益×4/3)-非転換型優先株式年間配当相当額  
×100  
(期首連結株主資本合計-期首発行済非転換型優先株式数×払込金額+期首為替換算調整額)  
+(第3四半期末連結株主資本合計-第3四半期末発行済非転換型優先株式数×払込金額  
+第3四半期末為替換算調整額))÷2

## ●貸出金

- 国内貸出はほぼ横這い、海外貸出が減少のほか、泉州銀行非連結化を主因に09年9月末比減少

## ●有価証券

- 国債、外国債券の減少により09年9月末比大幅な減少

## ●預金

- 個人預金は大幅な増加の一方、海外店預金の減少に加え、泉州銀行非連結化により09年9月末比減少

## ●開示債権

- 開示債権の増加により、開示債権比率は09年9月末比微増も、低水準を維持

## ●その他有価証券評価損益

- 証券化商品等その他の有価証券を中心に09年9月末比改善

## <連結B/S>

(単位: 億円)

	09年9月末	09年12月末	09/9末比
1 貸出金(銀行勘定+信託勘定) [貸出金(銀行勘定)]	882,072 [880,320]	855,593 [853,925]	▲26,479 [▲26,395]
2 うち国内法人貸出*1	481,131	480,811	▲320
3 うち住宅ローン*1	173,015	173,264	248
4 うち海外貸出*2	175,009	168,712	▲6,296
5 有価証券(銀行勘定)	573,843	541,555	▲32,288
6 預金	1,220,437	1,191,247	▲29,189
7 うち個人預金 (国内店、単体合算)	628,444	637,373	8,928
8 国内預貸金利回り差 (単体合算)	(09年上期) 1.34%	(09年1-3Q) 1.33%	▲0.00%
9 金融再生法開示債権*1	12,459	13,390	931
10 開示債権比率*1	1.38%	1.48%	0.10%
11 その他有価証券評価損益	4,148	5,287	1,138

\*1 単体合算+信託勘定

\*2 海外支店+ユニオン・バンカル・コーポレーション+BTMU(中国)

# 貸出金・預金

【連結】



●貸出金残高は85.5兆円  
(09/9比▲2.6兆円)

<09/9比増減の主要因>

- 国内法人貸出 ▲0.0兆円
- 海外貸出\*1 ▲0.6兆円
- 泉州銀行非連結化 ▲1.7兆円

\*1 海外支店+ユニオンバンク・コーポレーション+BTMU(中国)

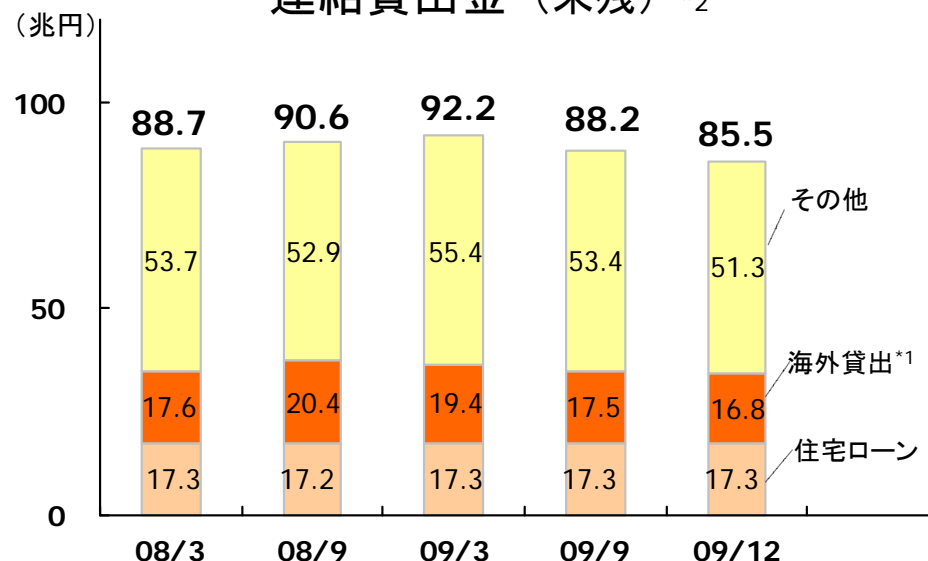
\*2 銀行勘定+信託勘定

●連結預金残高119.1兆円  
(09/9比▲2.9兆円)

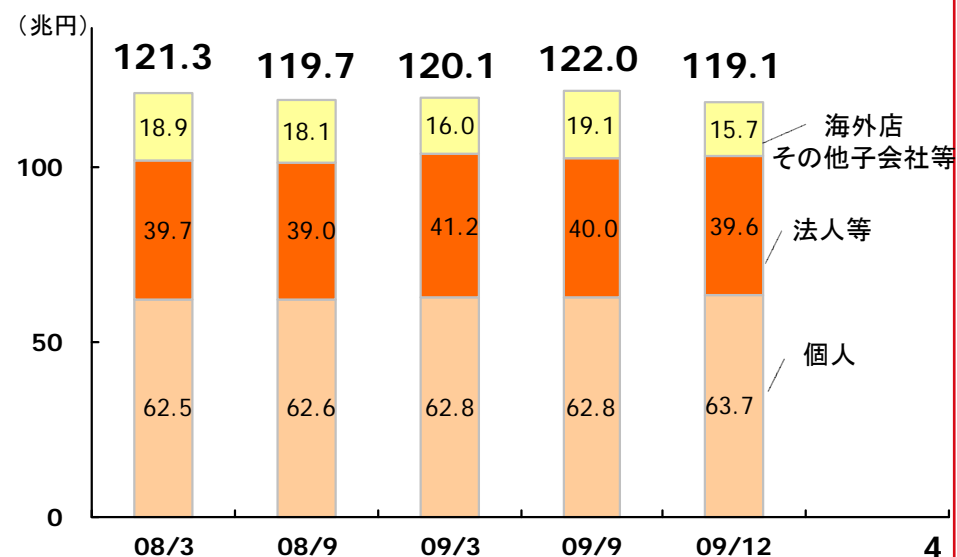
<09/9比増減の主要因>

- 個人預金 +0.8兆円
- 法人等預金 ▲0.3兆円
- 海外店預金 ▲1.0兆円
- 泉州銀行非連結化 ▲1.9兆円

連結貸出金（末残）\*2



連結預金（末残）



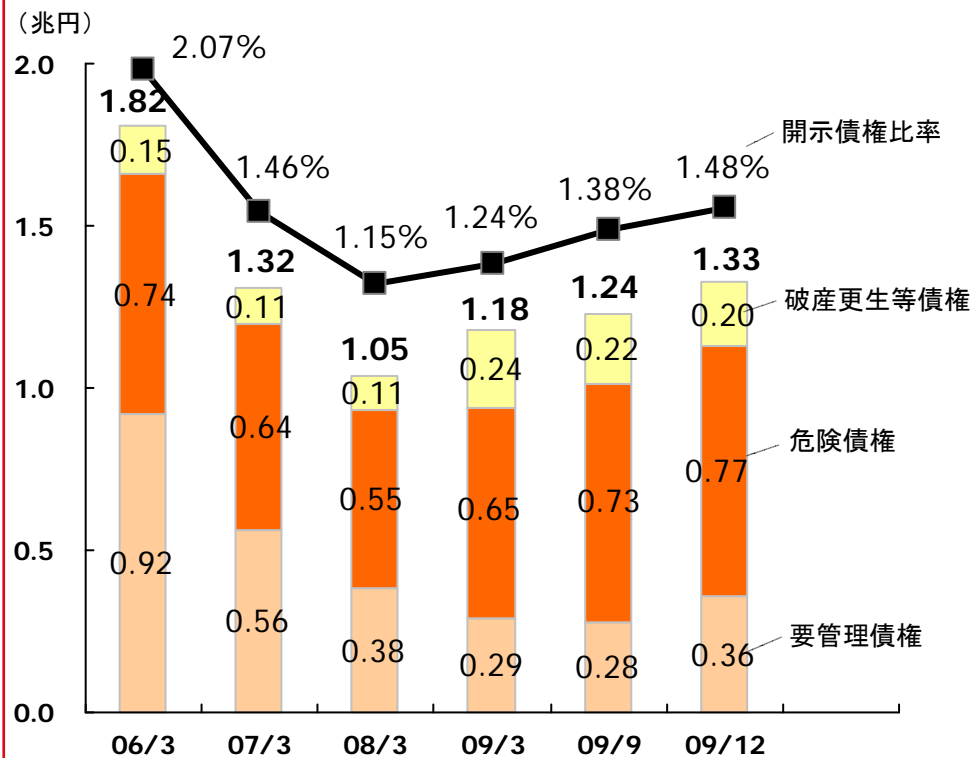
# 貸出資産

【連結・単体合算】

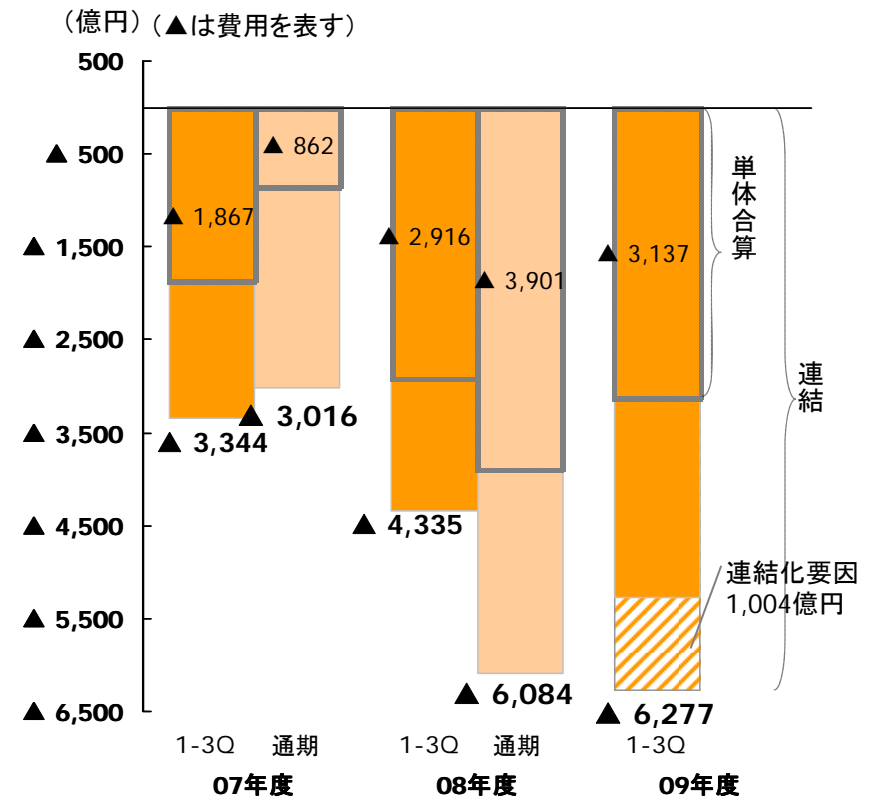


- 危険債権及び要管理債権の増加により、開示債権比率は09/9末比0.10ポイント上昇の1.48%
- 与信関係費用は単体合算で3,137億円、連結では6,277億円の費用計上

## 金融再生法開示債権残高(単体合算)



## 与信関係費用総額



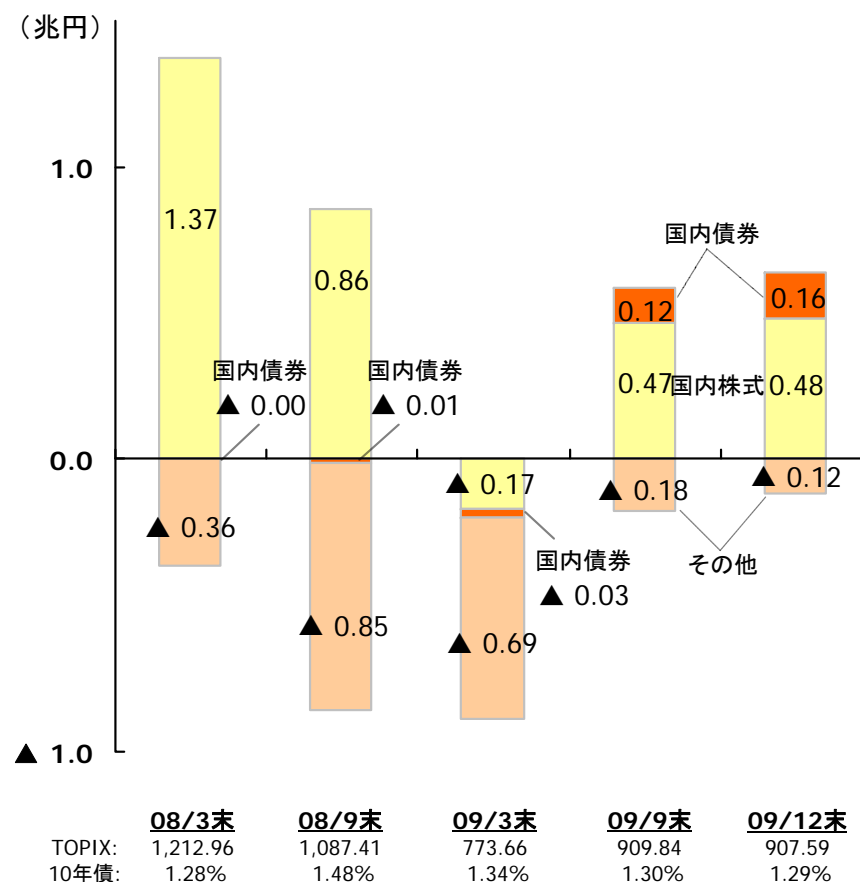
- 国内債券及びその他の有価証券の評価益改善により、その他有価証券全体の評価損益は09/9末比1,138億円増加

## その他有価証券(時価あり)の内訳

(億円)

	09年12月末 残高	評価損益	
			09/9末比増減
合計	475,071	5,287	1,138
国内株式	41,846	4,890	122
国内債券	314,731	1,678	435
その他	118,493	▲1,281	580
外国株式	2,799	705	68
外国債券	96,065	168	▲443
その他	19,628	▲2,154	955

## その他有価証券評価損益の推移



● 証券化関連商品等の残高は約1.92兆円(09/9末比▲620億円)

残高は減損後、評価損控除前。10億円刻みで表示(億円単位で四捨五入)、管理ベース

- 証券化商品等の残高は、格下げ・価格下落リスクのある銘柄の売却および償還により、1.92兆円に減少(09/9末▲620億円)
- 評価損益は▲1,490億円と、09/9末比570億円改善
- 第3四半期(09年4月～12月)の損益(P/L)への影響額は、売却損等による▲140億円

残高及び評価損益

(09年12月末時点)

	(億円)	残高		評価損益		内、満期保有目的の債券*	
			09/9末比		09/9末比	残高	評価損益
1	RMBS	1,020	▲40	▲20	30	0	0
2	うちサブプライム	320	▲20	20	20	0	0
3	CMBS	240	▲10	▲20	0	0	0
4	CLO	15,660	0	▲1,430	440	12,430	▲1,160
5	その他(カード等)	2,200	▲530	▲20	90	280	▲10
6	CDO	90	▲50	▲10	20	0	0
7	SIV	0	0	0	0	0	0
8	合計	19,210	▲620	▲1,490	570	12,710	▲1,170

\* 実務対応報告第26号「債券の保有目的区分の変更に関する当面の取扱い」の公表に伴い、2009年1月末以降に保有証券化商品の一部を「その他有価証券」から「満期保有目的の債券」に区分変更。なお、上記満期保有目的の債券の残高・評価損益は、区分変更前の簿価を基準としています。

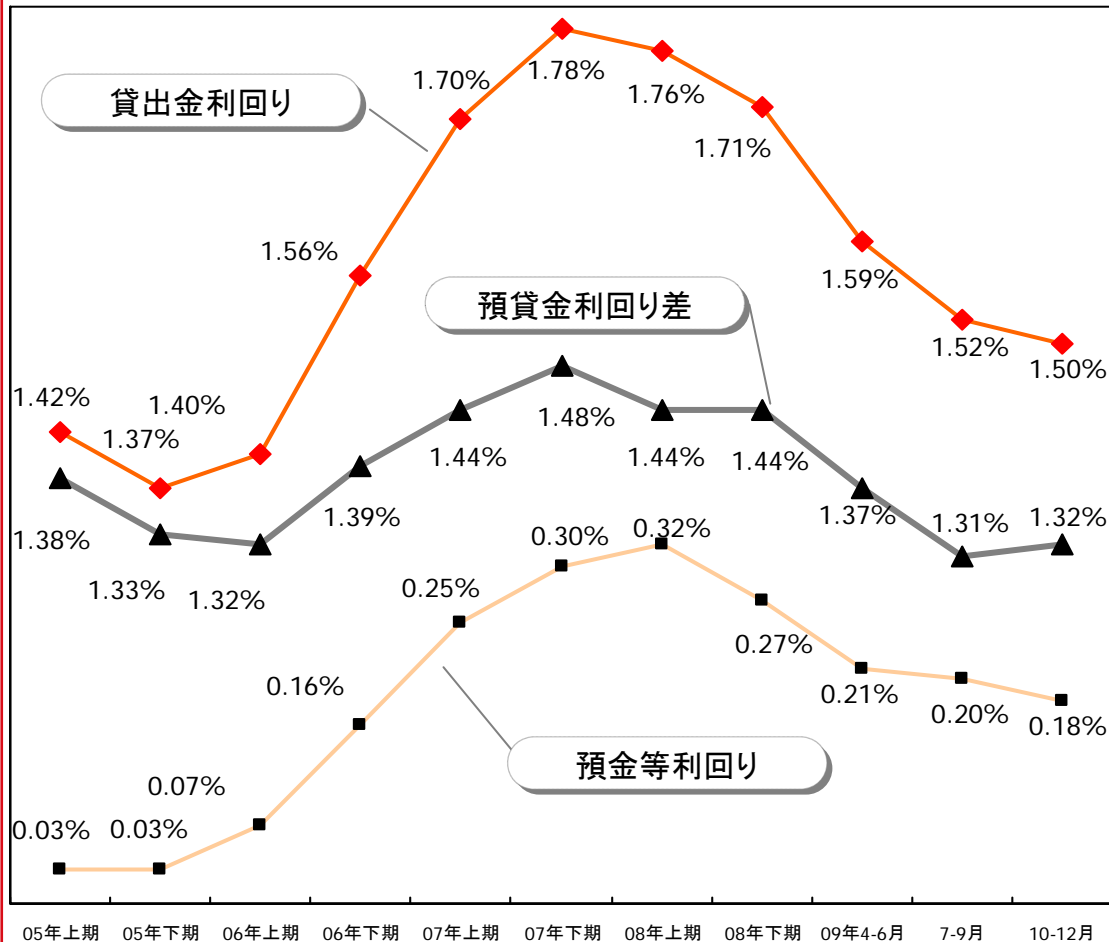


# Appendix

Quality for You   
MUFG

●09年10-12月の預貸金利回り差は1.32%

## 国内預貸金利回りの推移(単体合算)



## 【金利改定状況】

- 2008年11月4日  
普通預金金利 0.200% ⇒ 0.120%
- 2008年11月20日  
短期プライムレート 1.875% ⇒ 1.675%
- 2008年12月22日  
普通預金金利 0.120% ⇒ 0.040%
- 2009年1月13日  
短期プライムレート 1.675% ⇒ 1.475%
- 2009年4月1日  
新規住宅ローン変動金利  
⇒3月1日時点の短期プライム連動長期貸出金利  
を基準に変更
- 2009年7月1日  
既存住宅ローン変動金利  
⇒4月1日時点の短期プライム連動長期貸出金利  
を基準に変更

# 証券化商品エクスポージャー1:概要

【連結】



・開示対象: BTMU(含むUB)、MUTB、MUS  
 ・商品範囲: 内部管理ベースの証券化商品(含む満期保有目的の債券)。米国GSE等が組成・保証するモーゲージ債(別掲)、住宅金融支援機構債等の本邦住宅ローン証券化商品、投資信託等のファンドで保有している証券化商品等は含まず  
 ・09年12月末時点。残高は減損後、評価損控除前。10億円刻みで表示(億円単位で四捨五入)。1ドル=92.10円にて換算

## 保有証券化商品の概要(09/12末)

(1) 残高及び評価損益

(億円)

	残高		評価損益		内、その他有価証券	
		9月末比		9月末比	残高	評価損益
1 証券化商品	19,210	▲ 620	▲ 1,490	570	6,500	▲ 320
2 RMBS	1,020	▲ 40	▲ 20	30	1,020	▲ 20
3 うちサブプライム	320	▲ 20	20	20	320	20
4 CMBS	240	▲ 10	▲ 20	▲ 0	240	▲ 20
5 CLO	15,660	▲ 0	▲ 1,430	440	3,240	▲ 270
6 その他(カード等)	2,200	▲ 530	▲ 20	90	1,920	▲ 10
7 CDO	90	▲ 50	▲ 10	20	90	▲ 10
8 SIV	0	0	0	0	0	0

(2) 地域別残高分布

(億円)

	米州	欧州	アジア	日本	合計
1	14,410	4,290	40	480	19,210
2	790	230	-	-	1,020
3	320	-	-	-	320
4	10	30	-	200	240
5	11,470	4,010	-	190	15,660
6	2,100	-	0	100	2,200
7	40	10	30	-	90
8	0	-	-	-	0

(3) 格付別残高分布

(億円)

	AAA	AA	A	BBB	BB以下	無格付	合計
1 証券化商品	10,830	4,890	1,090	1,230	1,180	-	19,210
2 RMBS	370	110	160	150	220	-	1,020
3 うちサブプライム	190	10	20	50	60	-	320
4 CMBS	120	70	30	10	10	-	240
5 CLO	8,800	4,340	770	840	910	-	15,660
6 その他(カード等)	1,490	340	110	230	40	-	2,200
7 CDO	50	30	10	-	0	-	90
8 SIV	-	-	-	-	0	-	0

(4) 一次証券化商品比率

(億円)

	残高	比率
1 一次証券化商品	19,210	100.0%
2 二次証券化商品 <sup>*1</sup>	0	0.0%
3 合計	19,210	100.0%

\*1 サブプライムABS CDO及びSIV

## RMBS（住宅ローン証券化商品）

(1) 原資産別残高・評価損益 (億円)

	残高	評価損益	評価損益率	9月末比
1 RMBS	1,020	▲ 20	▲2.4%	2.8%
2 サブプライム	320	20	6.6%	6.6%
3 サブプライム以外	700	▲ 50	▲6.6%	1.2%

(2) 地域別残高分布 (億円)

	米州	欧州	アジア	合計
1	790	230	-	1,020
2	320	-	-	320
3	470	230	-	700

(3) 格付別残高分布 (億円)

	AAA	AA	A	BBB以下	合計
1 RMBS	370	110	160	380	1,020
2 サブプライム	190	10	20	120	320
3 サブプライム以外	180	110	150	260	700

(4) RMBSの組成年(ヴィンテージ)別残高分布 (億円)

	04年以前	05年	06年	07年	合計
1 RMBS	80	250	500	190	1,020
2 サブプライム	-	80	220	20	320
3 サブプライム以外	80	170	280	170	700

(5) サブプライムRMBSのヴィンテージ別評価損益(億円)

	05年	06年	07年	合計
1 サブプライムRMBS <sup>*2</sup>	80	220	20	320
2 評価損益	▲ 0	10	10	20
3 評価損益率	▲3.3%	4.9%	62.6%	6.6%

\*2 組成時当初WAL(平均年限)は約3.5年

## CMBS（商業用不動産証券化商品）

(1) 残高・評価損益 (億円)

	残高	評価損益	評価損益率	9月末比
CMBS	240	▲ 20	▲7.1%	▲0.6%

(2) 格付別残高分布 (億円)

	AAA	AA	A	BBB以下	合計
	120	70	30	10	240

(3) 地域別残高分布 (億円)

	米州	欧州	アジア	日本	合計
CMBS	10	30	-	200	240

## CLO（企業向けローン証券化商品）

(1) 残高・評価損益 (億円)

	残高	評価損益	評価損益率	9月末比
1 CLO	15,660	▲ 1,430	▲9.1%	2.8%
2 アービトラージ型	11,900	▲ 1,150	▲9.6%	2.6%
3 バランスシート型他	3,770	▲ 280	▲7.4%	3.6%

(2) 格付別残高分布 (億円)

	AAA	AA	A	BBB	BB以下	無格付	合計
1	8,800	4,340	770	840	910	-	15,660
2	6,000	3,970	440	620	860	-	11,900
3	2,800	370	330	220	50	-	3,770

(3) 地域別残高分布 (億円)

	米州	欧州	アジア	日本	合計
1 CLO	11,470	4,010	-	190	15,660
2 アービトラージ型	10,460	1,430	-	-	11,900
3 バランスシート型他	1,000	2,580	-	190	3,770

注) 企業向けローン証券化商品(CLO)は、評価の精度を高めるため、その大部分につき自社における合理的な見積もりに基づく合理的に算定された価格により評価  
上記の時価算定方法の変更による影響額は以下の通り  
・09年12月末残高が約510億円増加  
・09年12月末評価損が約860億円減少  
尚、09年12月期における損益への影響額は約+510億円

## 債務担保証券(CDO)

(1) 残高・評価損益 (億円)

	残高	評価損益	評価損益率	9月末比
1 CDO	90	▲ 10	▲6.5%	10.8%
2 サブプライムABS CDO	0	-	-	-
3 シンセティックCDO <sup>*3</sup>	40	▲ 0	▲3.4%	16.1%
4 その他のCDO <sup>*4</sup>	50	▲ 0	▲9.4%	4.8%

\*3 業種分散を図った投資適格企業の個々のCDSを参照資産としたCDO。価格の動きは主にCDSインデックスの価格動向に連動する

\*4 リース債権、社債等を参照資産としたCDO

(2) 格付別残高分布 (億円)

	AAA	AA	A	BBB	BB以下	合計
1	50	30	10	-	0	90
2	-	-	-	-	0	0
3	10	20	10	-	-	40
4	30	10	-	-	-	50

(3) 地域別残高分布 (億円)

	米州	欧州	アジア	日本	合計
1 CDO	40	10	30	-	90
2 サブプライムABS CDO	0	-	-	-	0
3 シンセティックCDO	10	-	30	-	40
4 その他のCDO	30	10	-	-	50

(4) 種類別残高 (億円)

	一次証券化商品	二次証券化商品	合計
1	90	0	90
2	-	0	0
3	40	-	40
4	50	-	50

## モノライン(金融保証会社)関連の状況

・モノラインとの与信及びクレジットデリバティブ取引はない

## SPE(特別目的事業体)の状況

### 【ABCP(Asset Backed CP)スポンサー業務】

- ・顧客資産の証券化を目的としたABCPの発行に関するスポンサー業務を実施
- ・ABCPコンデュイット(ABCPを発行する特別目的会社)の12月末買取資産残高は3.72兆円(うち海外分は0.93兆円)
- ・買取資産の種類は主として売掛債権であり、住宅ローン債権は含まれていない

## 証券化商品関連与信の状況

### 【証券化組成・販売用レバレッジドローン】

・レバレッジドローン証券化商品の組成・販売業務を行なっておらず、在庫ローンは保有せず

### 【LBOローン】

#### (1) LBOローンの残高 (億円)

	残高	9月末比
1 LBOローン(コミットメントベース) <sup>*5</sup>	5,410	230
2 うちブック残高	4,730	220

\*5 一部リファイナンス後の残高を含む

#### (2) 地域別残高分布 (億円)

	米州	欧州	アジア	日本	合計
1	570	1,350	390	3,100	5,410
2	370	1,200	360	2,810	4,730

## 米国GSE等関連の状況

### (1) 残高・評価損益 (億円)

	残高		評価損益		評価損益率	
		9月末比		9月末比		9月末比
1 モーゲージ債 <sup>*6</sup>	24,260	▲4,520	130	▲120	0.5%	▲0.3%
2 エージェンシー債 <sup>*7</sup>	7,400	2,310	▲30	▲40	▲0.4%	▲0.6%

\*6 ファニーメイ、フレディマック、ジニーメイが組成・保証

\*7 上記3機関及びフェデラルホームローンバンク自らが発行

本資料には、当社又は当社グループの業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。

かかる記述は、現時点における予測、認識、評価等を基礎として記載されています。また、将来の予想、見通し、目標、計画等を策定するためには、一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述ないし前提(仮定)は、その性質上、将来その通りに実現するという保証はなく、客観的には不正確であったり、実際の結果と大きく乖離する可能性があります。

そのような事態の原因となりうる不確実性やリスクの要因は多数あります。その内、現時点において想定しうる主な事項については、決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、Annual Reportをはじめとした当社の公表済みの各種資料の最新のものをご参照ください。